

手水舎

ほとんどの神社の入り口付近には、参拝者が境内に入る前に身も心も清めるための泉がある。古くは川や海で水浴びをしたが、現在では手や口を洗うだけで十分である。

住吉大社では、石造りのウサギの口から水が流れ出る。旧暦のウサギの日・月・年に住吉大社は創建されたといわれており、ウサギは住吉大社と密接な関係がある。

手水の使い方

まず右手で柄杓を持つ。水盤から水をすくい、それを使って左手をすすぐ。手を持ち替え、右手を洗う。次に、柄杓から少量の水を左手に注ぎ、口をすすぐ。水盤の外にある排水場に水をそっと吐き出す。最後に、柄杓に残った水を排水場に流し、柄杓を垂直に傾けて水が柄を流れていくようにして、すすぐ。